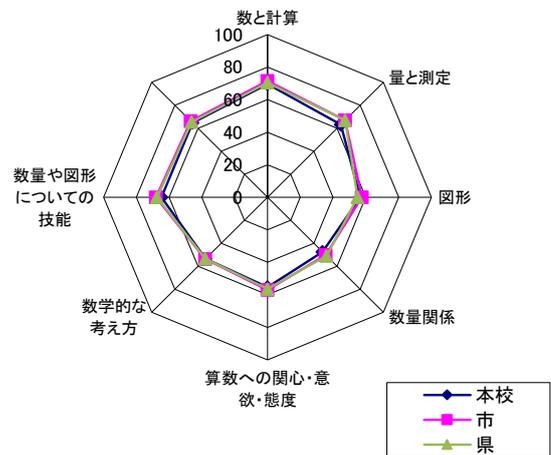


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.6	71.5	70.4
	量と測定	63.2	67.0	66.9
	図形	56.6	57.6	55.0
	数量関係	47.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	53.4	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	64.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.6	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は69.6%で、県の平均を0.8ポイント下回った。 ○仮分数、帯分数、整数、真分数の大小関係の理解を問う問題では、正答率は79.3%で、県の正答率を10.1ポイント上回った。 ●上からある桁までの概数の表し方の理解を問う問題では、正答率は75.0%で、県の正答率を7.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活での経験を大切にするために、数学的活動を積極的に取り入れる。 ・上からある桁までの概数の表し方を確認し、反復練習の機会を確保し、技能の定着を図る。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は63.2%で、県の平均を3.7ポイント下回った。 ●分度器の中に示された角の大きさのメモリの読み取り方の理解を問う問題では、正答率は60.3%で、県の正答率を6.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分度器やコンパスの使い方について再確認し、測定や作図に関する活動を充実させることにより、技能を確実なものにしていく。 ・全学年において、実生活での経験を大切にするために、数学的活動を積極的に取り入れる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○本領域の平均正答率は56.6%で、県の平均を1.6ポイント上回った。 ○四角形の対角線の性質の理解を問う問題では、正答率は65.5%で、県の正答率を5.7ポイント上回った。 ●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題では、正答率は13.4%と低い値になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質を確認し、提示のされ方が違っていても性質は不変であることをおさえる。 ・根拠を明らかにして相手に伝わりやすい説明ができるように、日ごろから順序立てて考えさせ、伝え合う活動に取り組ませる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は47.4%で、県の平均を3.7ポイント下回った。 ●二次元表の読み方を理解し、示されたものが表のどこに該当するかを問う問題では、正答率は44.8%で、県の正答率を11.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表やグラフの特徴を確認し、正確に読み取ることができるようになる。 ・文章問題を反復練習する機会を確保する。